

女性視点から見た避難所づくり 女性ができる防災

避難所管理責任者に女性を！

災害発生時は市役所の職員だけでなく、市民の皆さんも共に避難所の運営を担っていくこととなります。

避難所の運営について、女性の意見を積極的に取り入れるよう意識し、女性も積極的に手をあげることが大切です。

女性の意見を取り入れることで、女性・子育て世代の必需品や、女性用品等の必要な物資を揃えやすくなります。

また、“食事作りや清掃は女性”というような性別や年齢による役割の固定化を防ぐことにもつながります。



団体行動を心掛ける

過去に日本で起きた地震では女性の性犯罪の事件もありました。その様な事件を起こさないためにも、単独での行動はできるだけ避けるとともに、自宅に戻るときや避難所から離れる際も、家族や友人などと行動するようにしましょう。

また、防犯ブザーや笛など音の出るものを携帯するように心がけ、明るい時間でも、建物の死角など、周囲の目が行き届かない場所には一人で近づかないようにしましょう。



女性視点から見た避難所づくり

自分の身を守るために

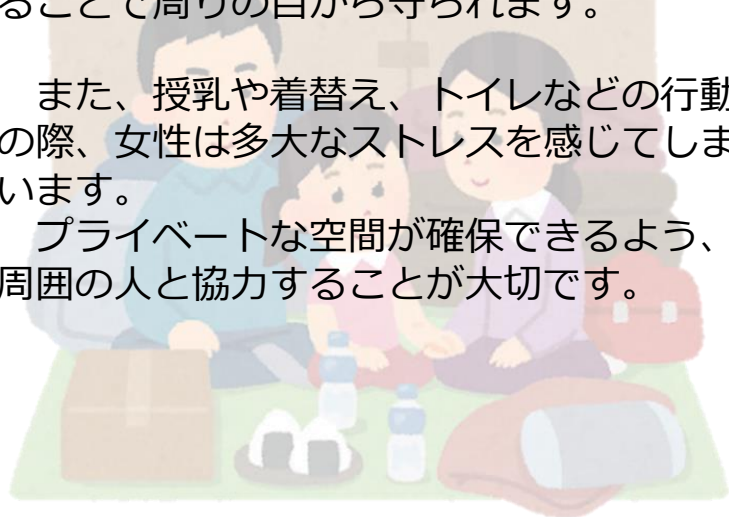
プライバシーに配慮した 空間の工夫

避難所では、限られたスペースに多くの人が生活します。

段ボールや衝立(ついたて)などを使って簡易的な壁の設置や災害用テントを準備することで周りの目から守られます。

また、授乳や着替え、トイレなどの行動の際、女性は多大なストレスを感じてしまいます。

プライベートな空間が確保できるよう、周囲の人と協力することが大切です。



着替えや洗濯干しは 専用のスペースを利用

集団生活のマナーとして、着替えや洗濯干しは避難所内に設置された更衣室や物干し場を利用しましょう。周りの目からプライバシーを守ることはもちろん、盗難被害なども予防できます。

カップ付きインナーなどのように、パッと見た時に下着と判断しずらくなっているものもあります。自分に合ったものを多めにストックしておきましょう。

また、災害が起きて、水不足により洗濯ができない状態でも、日の当たる日中に干して汗を乾かすことも有効です。肌荒れなどが気にならないのであれば、速乾性重視のものを揃えるのも一つの方法です。

女性視点から見た避難所づくり 在宅避難でできる工夫

在宅避難の注意点

被災地では災害の混乱に乗じた、空き巣や詐欺などの犯罪行為が発生します。

避難所に避難せず在宅中でも「家にいるから大丈夫」「鍵をかけているから大丈夫」などと油断をせず過ごしましょう。

また、ベランダに洗濯物を干したりすることで、在宅をアピールすることができます。男性物の衣類を干すとより効果的です。

また、人感センサー付きの防犯灯を設置したり、敷地内に防犯用の砂利を敷くこともおすすめです。



料理や食事の工夫

災害が起きると、ライフラインが止まってしまうことがあります。

電気、ガス、水道のどれかがなくなってしまうても料理ができるようにしておきましょう。

また、水道が止まってしまうと料理だけでなく、使用した食器を洗えなくなってしまいます。食器にラップをかぶせて使ったり、鍋やフライパンにアルミホイルを敷いて使ったり、調理の際には使い捨て手袋を使用するなどの工夫をしてみましょう。